

## 令和5年度 秦野市食育推進委員会（書面会議）内容について

### 1 秦野市食育推進委員会の趣旨説明（資料1）

- ・ 本委員会は、食育基本法に基づき、食育推進計画の策定及び推進に関することを協議、検討する場として、秦野市附属機関の設置等に関する条例で、組織及び運営について必要な事項を定め、設置しています。
- ・ 委員は15名以内とし、食育に関わる各機関から御推薦いただいた委員と公募市民委員により構成されています。
- ・ 任期は2年ですが、任期内の継続が難しくなった場合には、各機関から後任委員の御推薦をお願いしています。
- ・ 本委員会は市の関係課により構成している食育推進庁内会議を踏まえて開催しています。

### 2 議題(1)「第3次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）」の中間評価について（資料2、3、参考資料1）

- ・ 本委員会の協議を経て、平成24年度に「はだの生涯元気プラン」が策定されました。平成28年と令和3年の改定を経て、令和3年度より、「第3次はだの生涯元気プラン」の推進が開始されています。今年度は、令和4年度の評価及び第3次プランの中間評価を行います。

#### 「第3次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）取組状況一覧表（資料2）」

- ・ この一覧表は関係課等の取組状況を集約したものです。全54事業となっています。
- ・ 令和4年度は、新型感染症拡大防止対策として、事業の縮小または中止により十分な実績に結びつかなかった傾向が見られる一方、感染症予防対策を行いながら再開する事業も一部見られました。事業の縮小や中止を行いながらも、事業内容の変更や個別対応への切り替え、紙媒体の活用、動画配信やWeb講習会等、新しい生活様式に合わせた取組みを取り入れ、各課・各施設が適切に判断し、推進に努めました。
- ・ 【基本目標1 からだ】では、乳幼児健診や親子食育推進事業、保育園、こども園、幼稚園、学校等において家庭における食育の普及啓発

等を行いました。成人の食生活の改善や高齢者のオーラルフレイルや低栄養の予防についても推進を行いました。

- ・ 【基本目標2 ころ】では、給食やこども食堂、デイサービスでの共食や農業体験を通して食の楽しさを共有し、食に対する興味や関心を高める取り組みを行いました。また、地場産物や郷土料理を給食に取り入れることや、イベントや教室等を通じて伝統行事や食文化への理解や関心を高める取り組みを行いました。
- ・ 【基本目標3 らし】では、学校給食における地場産物利用の促進や、登録認定制度や農産物応援サポーター制度の推進を図り、地産地消を推進しました。また、幼稚園、こども園、学校やイベントを通して食と環境について考える機会の提供や、体験を推進する取り組みを行いました。さらに、学校においては、食に関する指導體制充実のためのネットワークを活用して食育の推進を図りました。また、食育を担うボランティアの人材育成と活動の支援等も行いました。

### 「第3次はだの生涯元気プラン（秦野市食育推進計画）の目標値の達成状況（資料3）」

- ・ 令和3年度及び4年度の達成状況について、第3次プランの中間評価を行いました。目標から遠ざかっている項目や横ばいの項目について、要因の洗い出しを行い、残りの期間で目標達成ができるよう、各課で重点的に取り組みます。
- ・ 令和4年度達成状況では、目標を達成しているのは3項目、目標に近づいたのは4項目でした。また、ほぼ横ばいのものは5項目、目標から遠ざかったものは7項目、令和4年度に実績値の算出がなかったものが3項目となりました。
- ・ 新型コロナウイルス拡大防止対策として、事業の縮小または中止により十分な実績に結びつかなかった傾向が見られますが、各課・各施設が適切に判断し、推進に努めたことが評価されます。
- ・ 【基本目標1 からだ】では、目標に近づいた項目もありますが、策定時と比較して数値が横ばい、または目標から遠ざかった項目が多くなりました。
- ・ 指標1「朝食欠食の割合」では、朝食を食べない日がある理由（市民

Webアンケート調査)において、「お腹が空いていない」に次いで、「食べる習慣がない」「食べる時間がない」が多くなっています。食習慣と生活リズムとは関連性が高く、幼児期の習慣は大人になってからの習慣の基礎となるため、幼児期からの望ましい食習慣や生活リズムを確立するための、継続した取り組みが今後必要となります。

- ・ 【基本目標2 ころろ】では、目標から遠ざかった項目が一部ありますが、策定時より改善し目標に近づいた項目もありました。感染症拡大防止対策を行いながら、新しい生活様式に合わせた取り組みが今後必要になります。
- ・ 【基本目標3 ぐらし】では、目標から遠ざかった項目が一部ありますが、すでに目標を達成している項目も多くあります。
- ・ 指標1「給食食材における秦野産野菜の使用割合」については、隔年で割合を算出するため、令和4年度の実績値はありません。
- ・ 指標2「中学校給食の残食率」については、目標と実績値に12.4%と大きな差があります。中学校給食は開始してわずか2年ということもあり、配膳やおかわりの方法が学校間で統一されていないことなどが、要因のひとつとして考えられます。引き続き中学校給食担当者会議等で配膳方法の情報交換を行うほか、給食だより等を通して中学生に必要な栄養量についても発信を行っていく必要があります。

### 3 その他（報告）

#### 食育通信について（参考資料2）

- ・ 令和5年6月に食育通信17号を発行し、保育園、こども園、幼稚園、小中学校を通じて配布をしました。また、市の公共施設での配架に加え、6月の歯と口の健康週間でのフッ素塗布事業や、7月の食育講演会においても配布を行いました。さらに、市ホームページにも掲載しています。今後も、定期的に食育情報を発信し、広く啓発を行っていきます。

基本目標1 楽しく食べて健康なからだをつくります～生涯食育の推進～

資料2

評価指標		計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
朝食欠食の割合	3歳児	3.6%	0%に近づける	3.6%	3.0%				(こども家庭支援課)	
	小学生	6.1%	0%に近づける	6.3%	7.5%				(教育指導課)	
	中学生	10.7%	0%に近づける	10.8%	10.4%				(教育指導課)	
	20～30歳代男性	20.5%	10%以下	—	17.6%				(こども家庭支援課)	
基本施策	事業目標	令和4年度実施状況及び評価						課題及び今後の対策(方向性)	担当課	
	主要内容									
① 妊娠中からの食育の普及啓発	低出生児体重児の予防や妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の予防を目的に、体重増加を適正にコントロールするため、自分の体に合った体重増加量を知っている妊婦を増やす。	妊娠届出時の面接やおめでた家族教室において、適正な体重増加量や産前産後に必要な栄養素など、妊娠期からの食事の大切さについて周知を図った。おめでた家族教室では、料理カードや味噌汁の塩分測定を通して、数値化することで理解を促した。 おめでた家族教室:34回、参加者延べ393名(うち、妊娠期の食事:9回、参加者56名)						妊娠届出時にパンフレット等を配布し、栄養のバランスについて周知するとともに、おめでた家族教室で、適切な体重増加量と栄養のバランスについての普及啓発に努める。		こども家庭支援課
	・おめでた家族教室の実施 ・母子保健コーディネーター等による母子健康手帳交付時の妊娠面接の実施	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
		指標	体に合った体重増加量を知っている人の割合							
		目標値	80%	80%	83%	83%	85%			
		実績値	76.7%	65.2%						
② 認定こども園や学校、各事業等における「家庭における食育」の普及啓発	幼児期の発達の基礎となる「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣作りを伝え、子どもの情緒や言葉の発達を促す食事の役割を知ることで、家庭でも食育を実践できる意欲を育む。子どもだけでなく、大人も含めた食生活改善を促すことができるよう、共食を通じた食生活支援に努める。	・乳幼児健康診査において、配布資料を用いて、生活リズムを見直すことや朝食を食べることの大切さを伝え、食育の啓発を行った。集団指導は休止し、個別相談のみ実施した。 個別相談回数:236回 ・各セミナーにおいて、子どもの情緒、言葉の発達を促す食の役割について伝え、家庭における食育を実践する意欲を高めるよう努めた。また、離乳食の動画を市公式YouTubeを活用して公開し、情報を発信した。 離乳食セミナー:21回 263名、幼児食と歯のセミナー:9回 98名、動画配信回数:4回 総再生回数:3945回 ・食育講演会は「子どもの食を育む～わくわく弁当～」をテーマに3年ぶりに実施した。 ・はだの食育通信に市の食育の取り組み等を掲載し、市内幼稚園、こども園、保育所、小中学校等へ配布して普及啓発を行った。 発行回数3回、発行数各2000枚						子どもの食生活は親の食生活の影響が大きいため、子どもだけでなく、家庭全体の食生活についても見直していきけるよう周知していく必要がある。子どもの食と育児不安の解消を図り、家庭で楽しく食育ができるように、継続して支援していく。 離乳食開始について、広く周知を図るため、4か月健診の参加者全員に、集団栄養指導を行う。また、7か月健診が医療機関への個別受診に変更となることに伴い、離乳食セミナー「ステップアップ編」(7～10か月児対象)を新規導入し、既存のスタート編のセミナーと合わせて、切れ目なく支援を行っていく。 家庭における食育を実践できるよう、動画作成を関係団体と協働で行う。		こども家庭支援課
	・乳幼児健康診査(4か月児、7か月児、1歳6か月児、2歳児、3歳6か月児)における栄養教育、栄養相談の実施 ・親子食育事業(離乳食セミナー、幼児食と歯のセミナー)の実施 ・食育講演会等における食育の普及啓発 ・はだの食育通信の発行	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
		指標	食育を実践できそうと思った人の割合							
		目標値	100%	100%	100%	100%	100%			
		実績値	97.8%	97.4%						
園の給食を通して子どもにとっての適正量や味付け、調理形態などを知らせる。また、乳幼児の食に関する情報等を提供し、家庭における食育への支援を行う。	・新型コロナウイルス対策を、保護者試食会を実施した。園児の適正量や味付け、調理形態等を知らせたり、レシピを配付して家庭における食育の啓発を図った。 ・給食だよりを配布し乳幼児期の食習慣や生活習慣に関する情報提供を行った。						給食だよりの掲載内容について、家庭における食育が推進されるよう、保護者に寄り添った内容にする必要がある。引き続き、保育教諭、調理員、栄養士で情報共有を図り、内容を検討していく。		保育こども園課	
認定こども園における普及啓発 ・給食だより等の食育情報誌の発行 ・給食試食会の開催による保護者への支援	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7			
	指標	保護者への給食レシピ配布								
	目標値	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回				
		実績値	年2回	年2回						
家庭において健康的な食習慣の確立を支援する。	感染症対策等で給食試食会は、中止になってしまったが、栄養教諭や栄養士を中心に、地域の学校給食の特徴やレシピ、食文化を盛り込んだ「給食だより」を発行し、食への興味関心を高めるとともに、家庭における食の重要性の認識や生活習慣の改善の啓発を行った。栄養教諭が中心となって最新栄養情報等を発信することにより、子どもの日常生活の基盤である家庭における食育に関心が高まった。発行回数年11回						栄養教諭と保護者との双方向のやり取りを行う機会がないため、保護者の理解を求めることが難しい。子ども一人ひとりの発達や家庭環境の違いを把握し、食育指導ができるよう、より一層学級担任との連携を図る。		教育指導課	
学校における普及啓発 ・栄養教諭による啓発(給食だよりの発行等) ・給食試食会の開催による給食及び食育の理解促進	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7			
	指標	給食だよりの発行								
		目標値	100%	100%	100%	100%	100%			
		実績値	100%	100%						
・子育て支援センター「ぼけっと21」等において、食育に関する市の刊行物、講座案内等を配布し、普及啓発に努める。 ・子育て支援センターにおいて、食育に関する講座を開催する。	・食育通信の配布 ・食育をテーマとした講座の開催 ミニミニ講座:8回 ・感染症流行時に休止していた対面での講座を本格的に再開し、栄養士や歯科衛生士を講師とした講座を開催することで、日頃家庭で抱えている食に対する疑問や不安を解消し、家庭内の食生活の向上を図った。						・引き続き、子育て支援センターにおいて食育の情報提供を行う。 ・子育て支援センターで日頃から利用者の悩みや不安に耳を傾けながら、保護者が食に対して抱える内容を講座のテーマに取り上げることで、家庭内の食生活を向上させ、親子で楽しみながら食育できるよう支援していく。		子育て総務課	
・子育て支援センター「ぼけっと21」等への食育の情報提供等	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7			
	指標	食育をテーマとした講座の開催								
		目標値	8回	8回	8回	8回	8回			
		実績値	6回	8回						
③ 早寝・早起き・朝ごはんの普及啓発	子どもたちからその親世代へ、食育キャラクターポスターを活用して、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを伝え、実践する意欲を育てる。	市内幼稚園、こども園、保育園の希望園を対象に、親子の食への関心を高めるため、食育キャラクターポスターを活用した出前講座を実施し、「早寝・早起き・朝ごはん」に興味や関心を高めることにつながった。園児への食育と、保護者向けの食育をそれぞれ希望に応じて実施。 実施数:21園、園児676名、保護者106名						園児、保護者の実践意欲を高め楽しく食育を進められるよう、引き続き各園と連携し、普及啓発を図っていく。 感染症対策を取りながら、食育の歌に合わせた体操についても再開していく。		こども家庭支援課
	・市内幼稚園、保育所、認定こども園等に出向き、園児や未就園児と保護者へ食育キャラクターを活用した食育の実施	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
		指標	食育キャラクターを活用した食育の実施園数							
		目標値	15園	18園	20園	23園	25園			
		実績値	12園	21園						

(1) 食習慣の向上

第3次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)取組状況調査表

④ 食に関する指導の充実	望ましい生活習慣の確立に向けた食育を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食を活用した食に関する指導の充実を図るために「食に関する指導」年間計画を作成し、計画に沿って健康な食生活を営むことができるように、「食べ物と健康とのかかわり」「バランスよい食べ方」等についての指導を行っている。小学校においては、日常的に給食の指導としてバランスよく食べることに指導を行った。</li> <li>・小教研の栄養部会では「どうやってくるの？給食のたべもの」という動画を作成し、クロムブックを活用して全小学校で視聴することで関心を得ることができた。</li> <li>・中学校給食では、生徒向けに食育通信を発行し、地場産の食材や食文化等に触れて理解を深め、関心を持ってもらう取り組みを行った。その他、給食センターにて保護者試食会を実施し、家庭との連携をとった。また、小中学校の給食では、毎月「献立だより」を発行し、季節の料理や地場野菜を紹介しながら、栄養の取り方や季節の食材、地域の行事食の由来などを掲載し、家庭で保護者と情報共有できるよう取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校給食が実施され、時間や配膳方法など課題があるが、生徒や先生方も少しずつ慣れ、改善策の見通しがもてるようになってきたので、継続して支援していく。</li> <li>・令和5年度には、栄養教諭を中心としたネットワークを活かし、中学校の給食訪問を実施し、食育の推進とともに中学校給食の改善について取り組んでいく。</li> <li>・近年では、冷凍技術の進歩などから手軽に取れる食品が増え、塩分等の摂り過ぎから生活習慣病の低年齢化が進んでいる。授業等を通じ、食に対する正しい知識を身に付け、健やかな成長と、健康の保持増進を図る。</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> </tr> <tr> <td>指標</td> <td colspan="5">食に関する指導の実施</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	年度	R3	R4	R5	R6	R7	指標	食に関する指導の実施					目標値	100%	100%	100%	100%	100%	実績値	100%	100%				教育指導課 学校教育課
	年度	R3	R4	R5	R6	R7																							
	指標	食に関する指導の実施																											
	目標値	100%	100%	100%	100%	100%																							
実績値	100%	100%																											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における給食を通じた食育(食のマナーの向上等)</li> <li>・中学校における各教科での食育の推進</li> <li>・栄養教諭を中心としたネットワーク校への食育支援</li> </ul>	実績値																												
食を通じてからだところの健やかな育成を図るため、食への関心を高め、元気なからだづくりへの理解を促す食育を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢に合わせた食育を実施したが、4~5歳児へは、年間計画に基づき栄養士による食育指導を実施した。</li> <li>・5歳児を対象に、献立カードを活用した食育を実施し、毎日の給食を通じ、園児が楽しみながら食に関心が持てるよう支援した。</li> </ul>	引き続き、栄養士、保育士、調理員の各職種が連携し、取り組んでいく必要がある。																											
・認定こども園における園児への食育指導	実績値																												
	年度	R3	R4	R5	R6	R7																							
	指標	園児への食育指導																											
	目標値	年45回	年45回	年45回	年45回	年45回																							
	実績値	年45回	年45回																										

⑤ 働く世代における食育の推進	給食を通じた地域の健康づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特定給食等指導事業</li> <li>給食施設に対して講習会及び実地・電話指導を実施し、給食を通じた健康づくりを行った。</li> <li>・事業所実地・電話指導: 秦野市内16施設(対象施設19施設)について実地及び電話指導を行った。</li> <li>・特定給食施設等講習会 1回開催(Web1回開催。)</li> <li>参加施設数4施設、参加延人数4人</li> <li>○栄養改善普及運動</li> <li>事業所の従業員への健康づくりを推進するため、給食施設を通じて食育活動を実施した。</li> <li>・参加給食施設数 2施設(対象施設19施設)</li> </ul>	今後も、社員食堂のある給食施設に対し、実地・電話指導及び講習会等を通して、給食からの健康づくりを進めていく。また、事業所給食施設を通じて、従業員への食育活動を進めていく。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員食堂等の給食施設に対する指導や講習会の実施等、給食を通じた健康づくりの推進</li> <li>・事業所給食施設等における食育活動の実施</li> </ul>	実績値					
		年度	R3	R4	R5	R6	R7
		指標	事業所給食施設等における食育活動の実施				
	目標値	-	-				
	実績値	実施	実施				
働き手世代や子育て世代に、生活習慣病予防に関する知識の習得と望ましい食生活を送る人を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症の拡大防止のため、調理実習を中止し講義中心の内容とし、料理カードを用いて、自身の食生活を振り返りながら、望ましい食生活についての講義を行った。市公式YouTubeによる料理動画の配信や、HPへの簡単レシピの掲載等、若い世代への情報発信を行った。</li> <li>・実施場所 末広小学校 ・参加人数 46名</li> </ul>	働く世代や子育て世代に、生活習慣病予防に関する知識の習得と望ましい食生活の確立に向けたバランスの良い食事を伝える講座の提案に努める。市公式YouTubeによる料理動画の周知として、ぽけっと21等へQRコードを記載したポスターの掲示、チラシの配布等を積極的に行っていく。					
・幼小中PTA向け健康講座(食育編)の開催	実績値						
	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
	指標	講座を希望するPTAへの実施					
	目標値	-	-	-	-	-	
	実績値	0回(依頼無し)	1回				

評価指標		計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
体重が適正な人の割合(40~74歳)	男性	67.1%	71%	66.7%	66.2%				(国保年金課)
	女性	69.0%	72%	67.4%	67.2%				(国保年金課)
栄養バランスをそろえた食事をする人の割合(主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の割合)		62.8%	70%	—	58.5%				(子ども家庭支援課)
基本施策	事業目標 主な内容	令和4年度実施状況及び評価					課題及び今後の対策(方向性)		担当課
⑥ 学校における食育の推進	食に関する正しい知識と望ましい生活習慣の確立に向けた食育を進める。	小学校においては、バランスよく食べることに指導を行った。食生活や睡眠などの基本的な生活習慣を形成するため、学級活動で学年ごとにテーマを決めて、食に関する指導を行った。米の食べ比べにより、収穫した米と給食に出る米を比較するなど、総合・社会・学活の教科において横断的な学びを実践することができた。中学校においては、自らの健康を考えて、好き嫌いをなく食べる態度の育成を目指してきたが、体格さや生活習慣から、課題がある。							教育指導課
	・食に関する指導の充実	各校の食育の実績について数値で表すことは難しいが、「食に関する指導実施状況調査」をもとに、各校の状況を把握し、秦野市食育担当者会議(各校の食育担当・栄養教諭等が参加)において、食に関する指導の充実に向けて、各校の実践や課題にむけて共有し、指導計画や実績につないでいく。							
		年度	R3	R4	R5	R6	R7		
		指標	食に関する指導の実施						
	目標値	100%	100%	100%	100%	100%			
	実績値	100%	100%						
児童生徒の健康状態について、児童生徒自身やその保護者に正しく認識してもらい、必要に応じて生活習慣の改善を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学4年生及び中学2年生の保護者に対し、学校を通じて小児生活習慣病対策啓発パンフレットの配付を行った。なお、コロナウイルス感染症による医療ひっ迫回避のため、学校医等からの直接の指示を除き令和2年度から、過体重度(※)が+30%以上の者の保護者に対する医療機関への受診勧奨は実施していない。</li> <li>※ 実測体重が、基準体重より30%以上多いこと</li> <li>過体重度=(実測体重-基準体重)/基準体重 * 100</li> </ul>	【課題】児童生徒の健康状態について、児童生徒自身やその保護者に正しく認識してもらうために、内容を工夫しながら引き続き小児生活習慣病対策の啓発を行う必要がある。	【対策】引き続き学校と連携し、小児生活習慣病対策の啓発を行う。					学校教育課	
・児童、生徒の過体重とやせ対策	実績値								
	年度	R3	R4	R5	R6	R7			
	指標	受診率							
	目標値	30%	30%						
	実績値	-	-						

第3次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)取組状況調査表

(2) 食を通じた健康づくり

<p>食生活改善や身体活動の増加、休養の必要性を含めた、総合的な健康教育を実施し、具体的に実践的な支援を行う。 また、健康状態を把握できるよう地域を巡回し、健康意識の向上及び健康診査等の受診率の向上を図る。</p>	<p>1 今日からはじめる！血管イキイキ食活のすすめ 令和元年度まで、生活習慣病の重症化予防を目的に「生活習慣病予防のためのクッキングセミナー」を実施していたが、新型コロナウイルス拡大防止のため、調理実習を中止し、血管年齢測定と管理栄養士による講話を中心とした講座に変更。自身の健診結果等に基づきながら、生活習慣病を予防・改善するための食生活について支援した。 ・対象者 一般市民 ・実施回数 年6回 ・延べ参加人数 65名</p> <p>2 健康バス 東海大学が保有する測定機器を活用し、骨密度や血圧、体組成等の測定を実施し、その測定結果に基づき、説明及び保健指導を行った。併せて特定健康診査や市民健康診査の未受診者には受診勧奨を行い、市民の健康意識の向上を図った。 ・実施回数 年5回 ・延べ参加人数213名</p> <p>3 健康相談会 生涯を通じた健康の保持増進のため、市内未病センター2か所及び民間の未病センター1か所において、未病改善の基本である「食」「運動」「社会参加」の3つの取組の推進を図った。 ・実施回数 年7回 ・延べ参加人数 102名</p>	<p>講話内容によって定員を超える申込みがあり、希望者全員の参加ができていない。より多くの対象者が参加できるよう、定員を増やしたり、編成内容を変更したりするほか、家庭での実践に繋げるため、テーマ別献立のデモンストレーションと試食を実施し、生活習慣病改善への動機付けとなるよう講座の内容を充実させる。 また、若い世代の健康意識及び健診等の受診率向上のため、効果的な啓発と個人に合わせた支援を行っていく。</p>	<p>健康づくり課</p>																									
<p>⑦ 健康診断等に基づく食生活改善の推進</p>	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">実績値</td> <td>年度</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td colspan="5">健康バス 実施回数</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	指標	健康バス 実施回数					目標値	5回	5回	5回	5回	5回	実績値	5回	5回					
実績値	年度		R3	R4	R5	R6	R7																					
	指標		健康バス 実施回数																									
	目標値		5回	5回	5回	5回	5回																					
	実績値	5回	5回																									
<p>健診結果等に基づき、市民が自分自身の健康状態に合わせた生活習慣改善に取り組むことができるように、特定保健指導における食支援や健康教育を実施する。</p>	<p>1 特定保健指導における食支援 初回面接実施者数110人 (内訳:積極的支援11人、動機付け支援99人)</p> <p>2 今日からはじめる！血管イキイキ食活のすすめ講座 令和元年度まで、メタボリックシンドロームや生活習慣病の予防と改善を目的に実施してきた「スリムアップ食事バランス講座」について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調理実習を中止し、時間短縮して管理栄養士の講話と血管年齢測定で6回企画した。最少催行人数に達しなかった2回を見送り、4回実施した。開催を見送った回以降の定員を増員したことで、参加人数は前年の5回開催と大きくは変わらなかった。 対象者:特定健康診査及び人間ドック受診者 実施回数:教室開催4回 延べ参加人数:41人(前年実績44人) (うち特定保健指導対象者9人)</p>	<p>【課題】 ・体重が適正な人の割合を増加させることを目標としているが、計画策定時よりも減少傾向にあり、正常なBMIの割合を増やすことが課題となる。 ・特定保健指導への参加者を増やし、確実な改善を目指す。 ・血管イキイキ食活のすすめ講座では、「メタボ」という名称に抵抗を示す参加者もあり、適正なエネルギー摂取を心掛けるよりも野菜を多く摂る等の取り組みに留まる参加者が多く見受けられる。また、調理の実践に活かせる内容が乏しい。 【対策】 ・特定保健指導では、参加しやすい開催時期、場所、参加者の興味を引くインセンティブ等を随時、検討し、参加者増加を図る。 ・血管イキイキ食活のすすめでは、講座内容を充実させることで、参加者の満足度を高めるとともに、病態編と連携しながら食生活改善につなげられるよう進めていく。6回開催のうち、3回は従来通り血管年齢測定とし、3回は調理のデモンストレーション及び試食を実施予定。</p>	<p>国保年金課</p>																									
<p>・生活習慣病予防のための特定健康診査、事後の結果説明会、栄養相談の実施 ・生活習慣病(メタボリックシンドローム)予防対策事業(スリムアップ食事バランス講座等)の実施</p>	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">実績値</td> <td>年度</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td colspan="5">血管イキイキ食活のすすめ講座</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>年6回</td> <td>年6回</td> <td>年6回</td> <td>年6回</td> <td>年6回</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>年5回</td> <td>年4回</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	指標	血管イキイキ食活のすすめ講座					目標値	年6回	年6回	年6回	年6回	年6回	実績値	年5回	年4回					
実績値	年度		R3	R4	R5	R6	R7																					
	指標		血管イキイキ食活のすすめ講座																									
	目標値		年6回	年6回	年6回	年6回	年6回																					
	実績値	年5回	年4回																									
<p>歯周病の早期発見・早期治療につなげる。口腔意識及び健康意識の向上につながるよう口腔ケアに関する普及啓発を実施していく。</p>	<p>歯周疾患による口腔機能の低下を予防するために、対象年齢の市民に受診券を送付し、歯周病検診を実施した。新型コロナウイルスによる受診控えがみられたR3に比べて、R4は受診率の向上がみられた。 新型コロナウイルス拡大防止のため、例年同時に実施していた歯と口の健康週間の口腔ケア講演会は6月、口腔がん検診は3月にと別日程での開催となった。また、国保加入者へ送付する特定健診リーフレットにオーラルフレイル予防・口腔ケアの情報提供を掲載し、普及啓発に努めた。</p>	<p>歯周病検診の効果的な周知方法について、秦野伊勢原歯科医師会と検討し、受診率の向上を図っていく。 講演会については、参加者の増加を図るため、公共施設へちらしを設置するほか、周知方法を歯科医師会と相談して決定する。</p>	<p>健康づくり課</p>																									
<p>・歯周病検診事業の実施 ・歯と口の健康週間における口腔ケア講演会等の実施による普及啓発</p>	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">実績値</td> <td>年度</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td colspan="5">歯周病検診受診率</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>5.8%</td> <td>5.9%</td> <td>6.0%</td> <td>6.1%</td> <td>6.2%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>2.7%</td> <td>3.5%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	指標	歯周病検診受診率					目標値	5.8%	5.9%	6.0%	6.1%	6.2%	実績値	2.7%	3.5%					
実績値	年度		R3	R4	R5	R6	R7																					
	指標		歯周病検診受診率																									
	目標値		5.8%	5.9%	6.0%	6.1%	6.2%																					
	実績値	2.7%	3.5%																									
<p>児童生徒の健康状態について、児童生徒自身やその保護者に正しく認識してもらい、必要に応じて生活習慣の改善を促す。</p>	<p>虫歯や歯周病予防など、子どもたちの「歯からの健康づくり」のため、歯科衛生士による巡回指導を行った。 【小学校13校】 スライドショーにより、児童の発達段階に応じた歯に関する知識・技能が身につくよう指導した。 【幼稚園7園、こども園5園】 ・DVDにより歯磨きの大切さを指導し、顎模型に塗布した人工歯垢が、歯磨きで落ちる様子を確認させ、磨き方を指導した。(4歳児 8クラス・129人/5歳児 19クラス・348名)</p>	<p>【課題】 現在巡回指導を行っている学年に加え、小学校6年生や中学校1年～3年生へ歯の健康に関する意識づけを行う。 【対策】 巡回による正しい知識の啓発に加え、学校・園での歯みがきの習慣化が必要。</p>	<p>学校教育課 保育こども園</p>																									
<p>⑧ 良く噛んで味わって食べることの普及啓発</p>	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">実績値</td> <td>年度</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td colspan="5">学校等への巡回指導の実施率</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>98%</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	指標	学校等への巡回指導の実施率					目標値	100%	100%				実績値	98%	100%					
実績値	年度		R3	R4	R5	R6	R7																					
	指標		学校等への巡回指導の実施率																									
	目標値		100%	100%																								
	実績値	98%	100%																									
<p>適切な口腔清掃と健口体操の普及啓発により、高齢者の口腔に対する関心を高め、オーラルフレイルを予防する。</p>	<p>通いの場や各公民館で講座を行うなど、地域に出向き、口腔ケアの内容を取り入れ周知を図った。また、後期高齢者健診受診者への低栄養防止支援では口腔環境の改善についての内容も取り入れ、口の健康から体の健康につながるよう、個別支援を行った。 「介護予防・日常生活支援総合事業」の1つ、自立支援・重度化防止の推進対策として管理栄養士や歯科衛生士による訪問支援を強化し、要介護状態への移行を予防する支援を行った。 ○公民館等で行う口腔講座 ・「フレイル予防で健康長寿」5会場 延68人 ・出前講座 37回 延506人 ○ミニデイサービスでの講座 5回 延52人 ○いきいき運動コースでの講座 4回 延102人 ○後期高齢者健診低栄養フォロー支援(口腔支援含む) 実25人 ○日常生活支援総合事業「おいしく食べよう歯っぴー訪問(訪問C)」 口腔訪問件数:延73人</p>	<p>オーラルフレイルの認知をさらに普及する必要がある。高齢になってもよく噛んで味わって食べることができるよう、オーラルフレイルの予防について普及啓発の充実を図る。今後も地域高齢者支援センターと連携し、様々な場面を通じてオーラルフレイルについての普及啓発を充実させるとともに、個別の状況に合わせて支援の充実を図る。</p>	<p>高齢介護課</p>																									
<p>・8020運動の推進 ・オーラルフレイル予防のための出前講座及び予防教室の実施 ・フレイルチェック事業の実施 ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業における低栄養防止支援の実施 ・介護予防・日常生活支援総合事業(短期集中C)</p>	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">実績値</td> <td>年度</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td colspan="5">口腔に関する講座の延参加者数</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>950人</td> <td>1,000人</td> <td>1,000人</td> <td>1,000人</td> <td>1,000人</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>426人</td> <td>756人</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	指標	口腔に関する講座の延参加者数					目標値	950人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	実績値	426人	756人					
実績値	年度		R3	R4	R5	R6	R7																					
	指標		口腔に関する講座の延参加者数																									
	目標値		950人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人																					
	実績値	426人	756人																									
<p>子供の食べる意欲、身体、情緒、言葉の発達を促す食事の大切さを伝える。食べることから虫歯予防を啓発し、食事を含めた生活習慣の大切さを伝える。</p>	<p>妊娠届出時の面接において、口腔内を健康に保つことの重要性について普及啓発し、妊婦歯科健診の受診について周知した。 乳幼児健診や幼児食と歯のセミナーにおいて、生活リズムと食事のリズムを整えることの大切さ、発達の関係性を伝え、家庭での「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣づくりと、食を通じたむし歯予防、歯磨きの方法を啓発した。感染症拡大防止のため、乳幼児健診での集団指導及びセミナーでの試食の提供は休止した。 幼児食と歯のセミナー:9回 98名</p>	<p>子どもだけでなく、大人も含めた生活習慣の改善を促すことができるよう、朝食の喫食をはじめとした家庭での食育を継続して支援する。セミナーに申しやすいよう、健診での周知を継続する。 感染症対策を行いながら、セミナー内での幼児食の試食を再開していく。</p>	<p>こども家庭支援課</p>																									
<p>・妊婦歯科検診事業の実施 ・乳幼児健診における歯科指導(7か月児、1歳6か月児、2歳児)、幼児食と歯のセミナーの実施</p>	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">実績値</td> <td>年度</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>R5</td> <td>R6</td> <td>R7</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td colspan="5">自宅で虫歯予防を実践できそうと思った人の割合</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>100%</td> <td>97.8%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	指標	自宅で虫歯予防を実践できそうと思った人の割合					目標値	100%	100%	100%	100%	100%	実績値	100%	97.8%					
実績値	年度		R3	R4	R5	R6	R7																					
	指標		自宅で虫歯予防を実践できそうと思った人の割合																									
	目標値		100%	100%	100%	100%	100%																					
	実績値	100%	97.8%																									

第3次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)取組状況調査表

⑨ 高齢者の低栄養の推進	高齢者の低栄養予防を重点に高齢者に適した食事について広く普及啓発していく。	<p>通いの場や各公民館で講座を行うなど、地域に向き、低栄養予防の内容を取り入れ、周知を図った。</p> <p>また、後期高齢者健診受診者に対する低栄養の方に面接等により、個人の状況に合わせた低栄養改善支援を行った。</p> <p>「介護予防・日常生活支援総合事業」の1つ、自立支援・重度化防止の推進策として管理栄養士や歯科衛生士による訪問支援を強化し、要介護状態への移行を予防する支援を行った。</p> <p>○公民館等で行う栄養講座 ・「フレイル予防で健康長寿」3会場 延38人 ・出前講座 31回 延446人 ○ミニデイサービスでの講座 6回 延67人 ○いきいき運動コースでの講座 4回 延82人 ○地域高齢者支援センター主催介護予防教室 5回 延38人 ○後期高齢者健診低栄養フォロー支援(ハイスコアアプローチ) 実25人 ○日常生活支援総合事業「おいしく食べよう歯っぴー訪問(訪問C)」 栄養訪問件数:延10人</p>	<p>今後も、より多くの高齢者が個人の状況にあった適切な栄養習慣が身に付くような支援を展開する。また、「はだのさわやか体操で介護予防」などの団体にアウトリーチや地域高齢者支援センターと連携を図り、個人及び地域の状況に合わせた普及啓発を行う。</p>					
	<p>・高齢者の低栄養予防のための出前講座及び予防教室の実施</p> <p>・フレイルチェック事業の実施</p> <p>・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業における低栄養防止支援の実施</p> <p>・介護予防・日常生活支援総合事業(短期集中C)</p>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7
		指標	栄養に関する講座の延参加者数					
		実績値	950人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	

評価指標	計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	担当課	
食品を選ぶとき、安全性を意識して購入する人の割合	60%	65%	—	52.3%				(こども家庭支援課)	
基本施策	事業目標 主な内容	実施状況及び評価				課題及び今後の対策(方向性)		担当課	
⑩ 栄養成分表示の適正化の推進	消費者に対する適正な食品情報の提供及び提供された情報の活用を目指して実施する。	<p>・栄養表示等普及啓発及び活用推進事業</p> <p>コロナ禍が継続していたため、書面及び対面により消費者等に対し適正な食品情報の活用のため食品表示法の栄養成分表示等について普及啓発を行った。</p> <p>また、食品事業者へ栄養成分表示等、個別相談・指導を行った。</p> <p>【普及啓発講習会等】消費者等に対する普及啓発:10回 124人 【個別相談・指導】食品関連事業者に対する相談・指導:7件8回、消費者からの相談:0件0回</p>	<p>【課題】</p> <p>少しずつ機会が増えてきたが消費者に対する普及啓発の機会が少ない。</p> <p>【今後の対策】</p> <p>消費者へ直接対応する事業の際には、可能な限り栄養成分表示の活用を盛り込む。</p>						平塚保健福祉事務所 秦野センター
	<p>・栄養成分表示等の活用</p> <p>・栄養成分表示等の普及啓発(食品の適正な栄養成分表示の推進講習会等)</p>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	消費者に対する適正な食品情報の提供及び提供された情報の活用の普及啓発						
		実績値	-	-					
⑪ 食の安全に関する知識の普及	「食品事故」「食中毒」「輸入食品」「加工食品」等、食の安全に関する課題は様々であり、時代の変遷とともにその課題も少しずつ様変わりしていることから、消費者が正しい知識で食品を選ぶことができるよう、講座や啓発活動により周知を図る。	<p>・神奈川県食の安全・安心推進会議(事務局 神奈川県生活衛生課)と共催し、輸入食品の安全確保についての講座を実施。</p> <p>・消費者月間啓発ブースでのリーフレットの配布</p>	<p>社会情勢や状況に応じて、講座や啓発の内容を変えるなど、周知の工夫を図る。</p>						市民相談人権課
	<p>・親子消費者教室、消費生活相談等食の安全に関する知識の普及</p>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	食の安全に関する講座及び啓発の実施回数						
		実績値	1回	2回	2回	2回	2回		
⑫ 生産者の顔が見える食育の推進	給食における地場農産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。	<p>・県ホームページによる食の安全に関する情報の提供</p> <p>・食中毒予防月間(7月~8月)でのリーフレット配布(約5100部)</p> <p>・食中毒予防街頭キャンペーンは、新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止</p> <p>・食品衛生講習会の実施:12回 645名 ※eラーニングでの受講:259名</p>	<p>・食の安全に関する正しい知識を普及するため、引き続き啓発を行う必要がある。</p>						平塚保健福祉事務所 秦野センター
	<p>・県ホームページによる食の安全に関する知識の普及</p> <p>・食中毒予防キャンペーン</p> <p>・食品衛生講習会の開催</p>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	県民等に対する食の安全に関する知識の普及事業の実施						
		実績値	100%	100%	100%	100%	100%		
⑬ 生産者の顔が見える食育の推進	給食における地場農産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。	<p>・小学校給食における地場産農産物の導入</p> <p>秦野産農産物の供給団体(農協、東地区農産物直売研究所、丹沢秦野観光農業研究会、峠営農組合)と連携し、学校給食への新鮮な地場農産物の使用拡大を図った。</p> <p>・中学校給食では、秦野市農業協同組合と協定を締結し、地場産物の活用を促進した。また、献立の年間計画を事前に示すことで使用品目や使用量の確保を依頼した。さらに、JAはだのの担当者や給食調理受注業者を交え、作物の規格や種類の取り扱いについて定期的に話し合いの機会を設け、JAはだのの担当者を通じ、市内生産者に作付けや新規生産等の協力をいただけるよう依頼した。</p> <p>小学校給食では、地域生産者組合や市内事業者を通じて季節に応じた地場産物の確保を依頼した。</p> <p>なお、地場産物の使用する割合は段階的に上げていくため、隔年で割合をだすものである。</p>	<p>・引き続き供給団体と連携を取りながら地場産農産物の使用拡大を図っていく。</p> <p>・打合せを定期的に行うほか、担当者を通じて生産者に作付けを依頼し、引き続き地場産物の活用促進に努める。</p>						農業振興課 学校教育課
	<p>・学校給食における地場産物の導入</p>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	学校給食における地場産物を使用する割合						
		実績値	33%	-	40%	-	50%		
⑭ 生産者の顔が見える食育の推進	生産者と消費者との交流を通して、地場産野菜と本市の農業への理解を深め、地産地消を図るとともに、健康的な食生活の実現に向けた支援により生活習慣病の予防につなげる。	<p>1 はだの野菜ヘルシー料理講座</p> <p>地産地消の推進と生活習慣病予防を目的として、生産者講師から野菜に関する情報提供と、地場産野菜を使用した食事(1食約500kcal、塩分3g未満)の調理実習を行う講座を実施してきたが、新型コロナウイルス拡大防止のため中止した。</p> <p>2 SNSを活用した料理動画配信</p> <p>自宅においても健康的な食生活を実践するための支援として、市公式YouTubeを活用し、料理動画を配信した。野菜を中心とした電子レンジで簡単に調理できるメニュー等で、実践しやすい内容になるよう努めた。</p> <p>・配信数 9回 ・動画総再生回数 1,972回</p>	<p>調理実習を伴う講座を休止しているため、生産者との交流による啓発ができない状況が続いている。令和5年度は、会場を分散させ、本講座を再開予定。また、新しい生活様式として、地場産野菜を使用したメニューでの動画配信等により、地産地消の推進にもつなげていく。</p>						健康づくり課
	<p>・地産地消推進事業(はだの野菜ヘルシー料理講座等)の実施</p>	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	料理動画 総再生回数(各年)						
		実績値	4,500	4,600	4,700	4,800	4,900		

基本目標2 食を大切に、豊かなところを育みます～共食によるコミュニケーションの推進～

評価指標		計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1日に1回以上、家族の誰かと食事をするようにしている人の割合		98%	100%に近づける	98%	98%				(子ども家庭支援課)
基本 施策	事業目標 主な内容	令和4年度実施状況及び評価					課題及び今後の対策(方向性)		担当課
	① 食育の日の啓発活動の推進	<p>「毎月19日は秦野市民の食育の日、家族そろって食べようDAY!」を広め、共食によるコミュニケーションを推進し、食べることの大切さや楽しさを普及啓発する。</p> <p>・毎月19日は食育の日であることを周知し、食への関心を高める。</p> <p>・毎月19日は秦野市民の食育の日、家族そろって食べようDAY!」の普及啓発</p> <p>・食育月間における家族団らん共食の推進</p> <p>・庁内ポータルサイト掲示板およびホームページでの食育の普及啓発</p>	<p>・市管理栄養士が勧める食育事業や子ども園等の給食メニューを、毎月19日の食育の日に合わせて、全庁的連絡事項掲示板及びホームページに掲載し、食育の日の周知を行った。</p> <p>ホームページのアクセス件数 毎月19日は食育の日「家族そろって食べようDAY!」 470回/年 市管理栄養士からのおすすめヘルシーレシピ 876回/年</p> <p>・食育の日の周知啓発のため、秦野市食育キャラクター「ボンチーヌ」を起用したポスターを掲示した。給食指導等においても「ボンチーヌ」を活用し、子どもたちの食に対する興味関心を高めた。 食育の日のポスター掲示率 100%</p> <p>・市立認定子ども園では、給食だより等を通して保護者へ食の情報を発信し、家庭での食育の啓発を行った。</p>	<p>・のぼり旗の掲示や活用による各学校等の取り組みを支援し、引き続き、市民への周知を行う。</p> <p>・ボンチーヌのポスターをきっかけに、食に関する意識を更に高める。ポスターに食材の情報などを載せ、食に関する様々なことに対して関心を高める。</p>	子ども家庭支援課 教育指導課 保育子ども園課				
② 給食(共食)を通じたコミュニケーションの確保	<p>・農作物の栽培、収穫体験を通じ、食への関心を高める。</p> <p>・日々の給食においては保育士や他の園児等と、また、給食試食会においては保護者等と食事を共にし、食べる楽しさを味わうとともに、食事のマナー等を知らせる。</p> <p>・体験給食等における異年齢交流の促進</p> <p>・給食試食会における保護者等との交流の促進</p>	<p>・夏野菜等の栽培や収穫活動を通じて食に対する興味や関心を深める活動を行った。本の内容とリンクさせた献立を作ることで、お話の紹介とともに献立(コロッケ)への関心が増した。外にも、季節にちなんだ行事食を献立に取り入れると児童が喜び、レシピを家庭に紹介するなど、献立の工夫から、子供たちの食への関心が高まった。</p> <p>・感染症対策を行いながら、給食試食会を実施した。</p> <p>・調理保育における園児同士や保育士とのコミュニケーションをとって、食べ物の大切さやありがたみを共有し、食べ物への感謝の気持ちを育んだ。</p>	<p>・食の全体計画の中で、取り入れていく活動を考え、学校全体で食に対する関心を高めていく。</p>	教育指導課 保育子ども園課					
	<p>・地域における「共食」の機会として有効な「みんなの食堂」等の運営団体を支援する。</p> <p>・公共施設を利用して開催する団体へ、場所を提供する。</p> <p>・市民等からの食材等の寄附の申し出を運営団体へ繋げる。</p>	<p>・「みんなの食堂」等の開催 開催団体:5団体 開催回数:96回 参加者:1430人 ボランティア:921人</p> <p>・公共施設を利用して安定した「食堂」を開催できるよう、施設を手配した。</p> <p>・年齢に関わらず地域のあらゆる世代の人が集まり、共に食事をすることで、食への関心を高める事が出来た。</p> <p>・寄附を受けた地場野菜等を食材として活用することにより、地産地消の意義を学んだ。</p>	引き続き「みんなの食堂」等の運営団体を支援し、事業の継続を推進するとともに、活動を周知していく。	子育て総務課					
<p>・市民団体が実施する「みんなの食堂」等の事業の支援</p>	<p>・住民主体によるデイサービス事業を実施する団体に補助することにより、高齢者の引きこもりを予防し、ひとり暮らし高齢者であっても、誰かと食事をする機会を失わないようにする。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、適切な感染対策を行いながら通いの場を提供する団体に、補助を行うことができた。</p> <p>・補助団体数:8団体 ・補助額:577,280円</p>	<p>各地域高齢者支援センター等と連携し、通いの場を必要とする高齢者が利用できるよう努める。</p>	高齢介護課					
<p>・住民主体によるデイサービスなど、介護予防事業における交流の実施</p>									
	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
		指標	庁内掲示及びホームページ掲載数						
		目標値	12回	12回	12回	12回	12回		
		実績値	12回	12回					
	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
		指標	小学校、中学校における農作物の栽培、収穫体験の実施 公立認定子ども園における年長児の調理保育の実施						
		目標値	100%	100%	100%	100%	100%		
		実績値	小、中学校:100% 子ども園:100%	小、中学校:100% 子ども園:100%					
	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
		指標	みんなの食堂開催回数						
		目標値	44回	44回	55回	55回	55回		
		実績値	9回	96回					
	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
		指標	住民主体型通所サービスの延べ利用件数						
		目標値	1,700	1,900	2,100	2,100	2,100		
		実績値	1,791	4,713					

① 食を通じたコミュニケーションの確保

② 給食(共食)を通じたコミュニケーションの確保

評価指標		計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
体験型農業の拡充(観光農業など体験型農業の参加区画数)		344区画	375区画	121区画	103区画				(農業振興課)
食に関する体験活動に参加したことがある人の割合		26.8%	40%	33%	38%				(こども家庭支援課)
基本施策	事業目標 主な内容	令和4年度実施状況及び評価					課題及び今後の対策(方向性)		担当課
③ 家庭における食農体験の推進	資材の補充や積極的な広報活動によって、体験型農業の一層の利用促進を図る。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、農園ハイクを中止とした。					【課題】 ・「新たな生活様式」への対応等も含めた体験型農業の受け入れ態勢の充実及び効果的なPRによるさらなる農業者と市民との交流を推進していく。 ・実施団体の財政的独立 【対策】 ・新たな生活様式の対応等を含めて、検討をしていく。 ・新たな財源の確保をしつつ、市の補助金なしでも自立できる事業になるよう検討する。		農業振興課
	・体験型農業の利用促進	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	体験型農業の拡充(観光農業など体験型農業の参加区画数)						
		目標値	375区画	375区画	375区画	375区画	375区画	375区画	
		実績値	121区画	103区画					
④ 幼稚園、認定こども園、小学校、中学校の農業体験等の促進	ふれあい農園事業を実施により、高齢者の知識と経験した生産事業に参加すること、高齢者相互及び園児との交流を深め、高齢者の生きがいの高揚を高める。	ふれあい農園(三本松)を開設し、作付けから収穫までの事業により地域の幼稚園、保育園児等と交流を図り、高齢者の生きがいを推進した。					【課題】 参加する高齢者が高齢化により減少し、後継者が育っていない。 【対策】 各老人クラブへ声掛けを行い、参加を募集する。		高齢介護課
	・ふれあい農園事業の実施	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	地域の保育園幼稚園児との交流						
		目標値	—	—	—	—	—	—	
		実績値	485人	376人					
(2) 食に関する様々な体験の充実	④ 幼稚園、認定こども園、小学校、中学校の農業体験等の促進	・地域の農業生産者の協力を得て、園児が苗(米、さつまいも等)を植え付けて収穫を行ったり、梅やみかんなどの収穫を行った。また、園庭の畑やプランターに、ピーマンやミニトマト、ナス等の苗を植え、栽培し収穫した。栽培、収穫、喫食するといった一連の食農体験をとおして、食べ物への関心を高め、感謝の気持ちを育むとともに、食べる意欲や食べ物を大切にすることを育み、残食を減らす意識を高められるようにした。さらに、これらの収穫物を家にも持ち帰り、農業体験を通じて親子のコミュニケーションや家庭での食育を図れるよう支援した。 ・新型コロナウイルス予防のため、園児一人ひとりで作業が可能なおにぎり作りなどの調理保育を実施し、日々の食事が出来上がるまでの過程を学ぶ機会とした。					引き続き、農業生産者等の協力を得ながら、栽培・収穫体験等の充実を図る。		保育こども園課
	・認定こども園における栽培活動や調理保育の実施	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	収穫体験等の実施						
		目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
		実績値	100%	100%					
⑤ 地域との連携による食の体験活動の促進	豊かな心を育むため、各園、校において農作別の栽培、収穫などの体験活動の充実を図る。	収穫体験を通して食への関心が高まり、苦手な食材を食べたり、残さず食べる気持ちが育まれるような指導をしてきた。地場産物の野菜で給食の献立紹介をして関心を高める。また、地域の農家との交流から、野菜に直接触れたことで、食べ物に感謝する心を育てることができた。					・食の全体計画とともに、収穫体験や栽培活動等、学校全体で食に対する関心を高め、継続的に実施していく。		教育指導課
	・幼稚園における農業体験活動の促進 ・小学校、中学校における農業等体験活動の促進と調理の実施	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	体験活動の充実						
		目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
		実績値	100%	100%					
⑥ 観光農業など体験型農業の推進	親子地場産野菜教室及びはだの市民農業塾は、継続的に実施する。	・作物の植え付けや管理、収穫及び調理まで体験する「親子地場産野菜教室」を実施。親子20組が参加。 ・令和3年度に引き続き、応募チラシを市内小学校や中学校に配布を行い参加者を募った。					【課題】 令和4年度も定員20組に達し、当日は農業協同組合の駐車場を借りていたが、車の誘導やATM利用者の妨げにならないよう、今後とも対応する必要がある。 【対策】 スタッフの配置等を十分検討し、引き続き、車の誘導を行う。		農業振興課
	・幼稚園、保育所、認定こども園児を対象とした食の体験活動の促進 ・生産者グループ協力による「親子地場産野菜教室(教育ファーム)」等の実施 ・市内企業と地域との連携による食育	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	親子地場産野菜教室参加親子組数						
		目標値	20組	20組	20組	20組	20組	20組	
		実績値	20組	20組					
⑥ 観光農業など体験型農業の推進	資材の補充や積極的な広報活動によって、体験型農業の一層の利用促進を図る。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、農園ハイクを中止とした。					【課題】 ・「新たな生活様式」への対応等も含めた体験型農業の受け入れ態勢の充実及び効果的なPRによるさらなる農業者と市民との交流を推進していく。 ・実施団体の財政的独立 【対策】 ・新たな生活様式の対応等を含めて、検討をしていく。 ・新たな財源の確保をしつつ、市の補助金なしでも自立できる事業になるよう検討する。		農業振興課
	・観光農業・体験型農業の実施 ・農産物の生産者等と市民との交流	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	体験型農業の拡充(観光農業など体験型農業の参加区画数)						
		目標値	375区画	375区画	375区画	375区画	375区画	375区画	
		実績値	121区画	103区画					

評価指標		計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
食育に関心がある人の割合		67%	80%	—	70%				(こども家庭支援課)
基本 施策	事業目標	令和4年度実施状況及び評価					課題及び今後の対策(方向性)		担当課
	主な内容								
⑦ 給食における和食や郷土料理等の導入の促進	小、中学校の給食における郷土料理等の導入の促進	11月24日の「和食の日」に合わせ、地場産物を使用した郷土料理を献立に取り入れるなど、児童生徒に身近な給食からその意義を知らせ、食文化への興味を高めるよう取り組んだ。また、献立表への記載や校内放送により周知することで、食育活動を行った。					一般社団法人和食文化国民会議が例年11月24日「和食の日」を中心に実施する「だしで味わう和食の日」企画に賛同し、和食の献立を取り入れていく。		学校教育課
	・小学校、中学校の給食における和食や郷土料理等の導入の促進 ・農業生産者等による総合的な学習による食育活動の実施	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	「だしで味わう和食の日」企画パンフレットの配付						
		目標値	—	—	—	—	—	—	
		実績値	0%	100%					
	食農教育の一環として郷土食や地域の伝統・手作りの味を伝承する。	・JAはだの女性部により、幼稚園・こども園の保護者が地域の伝統料理を知る機会や農作物を使い、手作りの温かさや優しさ、おいしさを伝承するふるさと料理教室を2年ぶりに実施した。【実績】市立こども園1回 市立幼稚園1回 ・小学校では、献立に地場産物を使用し、行事食の機会を取り入れ、季節感を味わうことで、食への意識が高まった。献立のレシピを学校と家庭で共有できると、食べものへの興味関心が広がった。 ・伝統的な郷土料理に加え、秦野の特産物を使ったオリジナル料理コンテストの応募があった。秦野の文化継承を知る機会となっている。名産の伝統野菜落花生、そば粉、新たな名産品青パパイヤを活用した献立が入賞し、市のHPや広報はだのなどでレシピ集として紹介された。					関係諸機関との連携を図りながら、地域との協力のもと、秦野の子どもたちと食に関する取組について引き続き、工夫していく。		教育指導課
	・農業生産者等の協力による食育活動の実施 ・JAはだの女性部の協力による、ふるさと料理教室の実施等幼稚園における郷土料理作り等の推進	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
		指標	農業生産者等の協力による食育活動						
		目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
		実績値	100%	100%					
伝統行事や文化に触れ、郷土料理を知らせる。	公立認定こども園の毎月の給食献立に、伝統行事や郷土料理等(七草がゆ、柏餅等)を取り入れ、園児にとって身近な給食からそれらの意味を知らせ、食文化への興味を高める取組を行った。また、給食日より、その月の献立と関連する伝統行事等についても掲載し、家庭における食育の推進につなげた。					引き続き、保育士、調理員、栄養士が連携し、行事食を通じて食文化への関心と理解を深めていく必要がある。		保育こども園課	
・認定こども園給食における和食や郷土料理等の導入の促進 ・認定こども園等における郷土料理づくり等の推進	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
	指標	給食日より等を用いた情報提供							
	目標値	年12回	年12回	年12回	年12回	年12回	年12回		
	実績値	年12回	年12回						
郷土料理、名産品や伝統行事の関わる料理教室を開催するとともに、季節のイベントに合わせた料理教室や「男の料理」、「親子料理教室」など多様な事業を実施する。	豊かな自然が残る上地区や大根地区の郷土料理「ふるさとの料理教室」、有機栽培で育てた秦野特産のそばを使った「そば打ち教室」や伝統行事である「どんと焼きだんご作り」や「飾り寿司作り」など21教室(延べ240人参加)を実施した。 また、郷土料理等以外についても、「かんたん料理教室」や男性を対象とした「男の料理教室」や子ども向けの「子ども料理教室」、親子で食育を考える「夏休み親子料理教室」等、33教室(延べ289人参加)を実施した。					【課題】ボランティア講師の継続的な確保や教室名のタイトルやメニュー、参加者の増における工夫・検討について 【対策】メニューの工夫・検討についてはボランティア講師と連携を取り、工夫していく。		生涯学習課	
・地元で伝わる料理を学ぶ「ふるさと料理教室」による郷土料理や和食等の食文化継承の促進	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
	指標	・郷土料理等の教室開催 ・郷土料理以外の料理教室の開催							
	目標値	・28教室 ・44教室	・33教室 ・31教室	・33教室 ・31教室					
	実績値	・21教室 ・22教室	・21教室 ・33教室						
県人会組織の充実を図り、市民や各県人会との交流を促進していく。	同郷の方々で組織された各県人会が出身地の特産品や料理を提供することで、郷土料理や食文化の継承を通して、市民との交流を図った。 ・秦野たばこ祭に5県人会が出店 ・秦野市市民の日に10県人会が出店 ・県人会フェア出店に15県人会が出店					特産品等の販売やイベントの開催により積極的に市民との交流を図っていく。		市民活動支援課	
・県人会活動の支援	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
	指標	特産品の販売回数(事務局把握分)							
	目標値	3回	3回	3回	3回	3回	3回		
	実績値	0	3回						
市民ボランティアと、小学校や中学校、農政、商工分野、秦野センター、食育事業者との連携による事業の実施ができる。 地場農産物の消費拡大、地産地消の意識の高揚を目的に食農等についての理解促進を図る。	秦野市食生活改善推進団体が主催するアイデア料理コンテストについて、企画支援、広報PRや関係部署等との協働により事業の推進を支援した。今年度から児童・生徒の調理及び試食を伴う最終審査を再開し、表彰式まで同日に実施した。(審査員の試食は熟食で実施。) 第13回アイデア料理コンテスト応募作品数:438点、うち8点入賞					引き続き、各分野と連携し、活動の支援を行う。食への関心を高められるよう、事業や作品等の周知を行う。		こども家庭支援課 農業振興課	
・アイデア料理コンテスト等の実施支援(郷土料理等の普及啓発)	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
	指標	アイデア料理コンテスト応募作品数							
	目標値	—	—	—	—	—	—		
	実績値	488点	438点						
はだの産農産物応援サポーター登録店50店舗を目標に事業の充実を図る。	令和4年度のアイデア料理コンテストは書類審査、調理審査ともに実施し通常通りの開催ができた。地産地消月間を周年にし、年間を通して幅広く対応できるように取り組んだ。					【課題】年間を通して、はだの産農産物応援サポーター登録店にレシピを提供し、市内で地産地消費拡大を促進する必要がある。 【対策】はだの産農産物応援サポーターに登録されている飲食店に地産地消年間の事業概要を改めて説明し、取り扱い店舗数を拡大していく。		農業振興課	
・地産地消月間の実施	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
	指標	アイデア料理コンテスト参加店舗数							
	目標値	10	10	10	10	10	10		
	実績値	0	0						

(3) 食の伝統技術や文化の継承

⑧ 地域における郷土料理、和食等の食文化継承の促進

基本目標3 自然の恵みに感謝し、活力ある暮らしをみんなでつくります～食でつなぐまちづくり～

評価指標		計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
給食食材における秦野産野菜の使用割合	認定こども園	7.1%	10%	8.3%	—				(保育こども園課)
	小学校	37.2%	50%	30.2%	—				(学校教育課)
	中学校	—	50%	37.7%	—				(学校教育課)
地場産物を積極的に購入したいと思っている人の割合		75.8%	80%	—	83.0%				(農業振興課)
基本施策	事業目標	令和4年度実施状況及び評価					課題及び今後の対策(方向性)		担当課
	主な内容								
① 秦野優良農産物等登録認定制度の充実	秦野優良農産物等登録認定制度の啓発等を通じ、安全で安心な秦野産農産物等の生産振興・消費拡大を図る。令和7年度までに優良農産物登録認定件数12件を目標に、生産者に対し制度の理解促進を図る。  安全、安心の品質を保持した市内農産物を認定する制度に登録し、マークを食品に表示することで安全、安心をわかりやすく提供します。	・環境にやさしい方法で栽培された、安全で安心・高品質な秦野産の農産物や農産加工品(以下、「農産物等」)を秦野市が設置した審査機関(地産地消推進部会)で審査・認証し、その農作物等の『よさ』を消費者の皆さんに分かりやすくPRするため、秦野優良農産物等登録認定制度を実施した。 ・なし、ブルーベリー、ブルーベリージャム、ぶどうの更新審査を行い、改めて認証をした。 ・安全で安心・高品質な秦野産農作物であることを消費者に分かりやすく伝えるため、シンボルマークを配布した。また、登録認定制度の啓発等を通じ、安全で安心な秦野産農作物等の生産振興・消費拡大を図る。登録件数12件を目標に、生産者に対し制度の理解促進を図る。					【課題】 秦野優良農産物等登録認定制度の普及  【対策】 イベント等の実施を通して、生産者及び消費者へPRを図る。		農業振興課
		実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
			指標	優良農産物登録認定件数					
			目標値	12件	12件	12件	12件	12件	
実績値	7件	5件							
② 給食における地場農産物の活用促進	給食における地場農産物の活用を図るため、学校給食関係者と生産者との交流を促進する。  ・小学校、中学校の給食における地場農産物の活用促進 ・学校給食関係者と生産者との交流の促進	新型コロナウイルスの拡大により中止していた「そら豆のさや剥き体験」や「とうもろこしの皮むき体験」を、小学校において実施した。 中学校給食では、秦野市農業協同組合と教育委員会で打ち合わせを行い、地場野菜の使用時期等の意見交換を行った。					生産者との交流の機会の増加、新たな地場農産物の取入れなどを検討していく。		学校教育課 農業振興課
		実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
			指標	学校給食における地場産物を使用する割合					
			目標値	33%	—				
実績値	小学校:30.2% 中学校:37.7%	—							
③ 地産地消を支える農業の推進	はだの産農産物応援サポーターの増加に努める。  ・はだの産農産物応援サポーター制度の実施(事業所、個人) ・市民農園の利用促進 ・「農」の担い手育成支援	1 「はだの産農産物応援サポーター」協力店 50事業所 2 市民農園の設置状況 3 「農」の担い手育成支援事業(はだの市民農業塾)の修了者数 (1)新規就農コース 4名 (2)基礎セミナーコース 10名 (3)農産加工セミナーコース 18名					【課題】 はだの産農産物応援サポーターが地産地消に協力していることの認知度が低い。  【対策】 今後もはだの産農産物応援サポーターの存在をPRする看板等を作成する。		農業振興課
		実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
			指標	はだの産農産物応援サポーター店登録数					
			目標値	51	52				
実績値	50	50							

評価指標		計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
可燃ごみ年間排出量		34,836t	33,600t	33,859t	33,213t				(環境資源対策課)
学校給食の残食率	小学校	2.2%	2.2%	2.3%	1.8%				(学校教育課)
	中学校	—	2.2%	9.8%	14.6%				(学校教育課)
基本施策	事業目標	令和4年度実施状況及び評価					課題及び今後の対策(方向性)		担当課
	主な内容								
④ ごみ減量に配慮した食生活の推進	評価指標の達成に向け、様々な場で啓発活動を実施し、家庭でのごみ排出量減量を図る。ごみの減量について、各家庭に一層の周知啓発を行うため、従来のイベント啓発、出前講座に加えて、公民館などの公共施設に常設のパネルを設置し、継続してごみの現状と減量目標を分かりやすく掲示する。  ・食べ残しなどの無駄を減らし、廃棄の少ない食事作りなど、家庭でできる食品ロス削減の啓発 ・飲食店における適正注文、持ち帰りなどによる、食べ残しを減らすための取組の実施 ・「もったいない」の意識の浸透を図るため、食品ロスの現状や削減に向けた情報発信	・可燃ごみの約3割を占める生ごみの排出抑制を図るため、生ごみ処理機購入費補助制度を実施している(電動・非電動・ディスプレイ)。令和4年度生ごみ処理機購入費補助件数:222台(電動:157台、非電動:45台、ディスプレイ:20台) ・市内の自治会等を対象に出前講座を開催した。(5回延べ177名)  ごみの排出量は、さまざまな減量、資源化施策により、順調に減量が進んでいる。					さらなる可燃ごみの減量には、水切りの徹底、生ごみの資源化及び食品ロスなど各家庭の協力が不可欠であり、今後も引き続き啓発活動を進める必要がある。		環境資源対策課
		実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
			指標	ごみの現状と減量目標を分かりやすく周知するため、公共施設に常設パネルを設置する					
			目標値	パネル設置:13ヶ所	パネル設置:13ヶ所	パネル設置:13ヶ所	パネル設置:13ヶ所	パネル設置:13ヶ所	
実績値	パネル設置:13ヶ所	パネル設置:13ヶ所							
⑤ 水や環境に配慮した体験活動の推進	・「名水の里 秦野」の恵まれた自然環境について知り、名水の歴史や名水を育む山やみどりの保全、名水を活かした名産品の体験を通して、心身の健康を育む。  ・名水の里である秦野市の水道や水や歴史について、次世代を担う子どもたちに水道事業の啓発を行う。	・はだのエコスクール 環境共生課、くずはの家、経営総務課、水道施設課、環境資源対策課、えのきの会、ネイチャーウォッチングクラブ、㈱不二家秦野工場、秦野ガス㈱実施分 実施回数 82回 延べ参加者数 4,782人 ・秦野名水さんぽ、秦野名水フェスティバル等 開催回数 12回 延べ参加者数 681人  ・市内小学校に対してエコスクール等を開催し、次世代を担う子どもたちに上下水道事業の啓発及び興味を抱く機会を提供することができた。 ・開催回数 7回(エコスクール、施設見学会) ・開催校数 6校 ・参加者数 642人 ・市内13小学校のうち6校からエコスクール等の開催依頼を受け、多くの子どもたちに上下水道事業のこのことを知る機会を提供することができ、水道水のきき水体験や水道創設期の陶管に触れるなど、小学生にとって貴重な体験となっている。 また、ソフトバンク株式会社と連携することで、人型ロボット「pepper」を活用した授業を行い子どもたちに関心をもってもらう機会を提供している。					・体験活動内容のマンネリ化が課題となっている。今後は、令和3年度に発足した「秦野名水名人講」と連携して市民等のニーズを反映した啓発事業を実施する。  ・小学校の開催意向に左右されてしまうが、エコスクール所管課からの案内通知に加え、上下水道局からの開催案内や上下水道パンフレットを送付するなど、積極的なPRに努める。		環境共生課 経営総務課
		実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	
			指標						
			目標値						
実績値									

第3回はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)取組状況調査票

進	・食を通じて水や環境について考え、これらを大切に育む行動を広げる取組(「秦野名水」やその歴史等に触れる機会及び「はだのエコスクール」などの環境学習)の推進	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7		
			指標	はだのエコスクール延べ参加者数(関連事業分)						
			目標値	2,000人	2,000人	2,000人	2,000人	2,000人		
			実績値	3,319人	4,782人					
⑥ 環境に配慮した農業の推進	秦野優良農産物等登録認証制度の啓発等を通じ、安全で安心な秦野産農産物等の生産振興・消費拡大を図る。令和7年度までに優良農産物登録認証件数12件を目標に、生産者に対し制度の理解促進を図る。	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	【課題】 秦野優良農産物等認証制度の普及  【対策】 イベント等の実施を通して、生産者及び消費者へPRを図る。	農業振興課
	指標		優良農産物登録認証件数							
	・GAP(農業生産工程管理)による環境にやさしい農業の推進 ・安全、安心の品質を保持した市内農産物を認定する制度に登録し、マークを食品に表示することで安全、安心をわかりやすく提供する		目標値	12件	12件	12件	12件	12件		
			実績値	7件	5件					
⑦ (再) 幼稚園、認定こども園、小学校、中学校の促進	・作物の栽培、収穫を通して自然の恵みや収穫の喜びを体験し、食への関心や食べる意欲を高める。 ・豊かな心を育むため、各園、校において農作別の栽培、収穫などの体験活動の充実を図る。	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	再掲	保育こども園課 教育指導課
	指標									
	・食べ物を大切に育む心、給食等の食べ残しを削減する取組の実施		目標値							
			実績値							

評価指標	計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
市民主体の食育推進に関わるボランティアの活動回数(市が把握するボランティア)	1,128回	1,130回	548回	590回				(健康づくり課、高齢介護課、子育て総務課)	
基本施策	事業目標 主な内容	令和4年度実施状況及び評価					課題及び今後の対策(方向性)		担当課
⑧ 学校指導における食に関する充実	学校等における食に関する指導体制の充実を図る。  ・食育担当者会議等の実施 ・栄養教諭を中心としたネットワークづくりの推進	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	教育指導課 学校教育課
		指標	食育担当者会実施						
			目標値	100%	100%	100%	100%	100%	
			実績値	100%	100%				
⑨ 産・学・民・官の連携による食育活動の充実	中学校給食の献立・栄養バランスの検討や食育の推進を図る。  ・大学による人材派遣や技術支援、秦野市PTA連絡協議会による事業への参加や広報活動の協力など、市民、大学、行政が連携した食育活動の実施	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	学校教育課
	指標		学識経験者と連携した会議(運営審議会)等の実施回数						
			目標値	—	—	—	—	—	
			実績値	2回	2回				
⑩ 食の	生涯を通じた健康の保持増進のため、手軽に健康状態や体力等を把握し、その結果に基づくアドバイスや未病改善の取組のための情報を受け取る機会を提供することで、健康寿命の延伸を目指す。  ・「未病センターはだの」における健康相談会等、未病関連企業との連携によるセミナーの実施	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	健康づくり課
	指標		未病改善セミナー 実施回数						
			目標値	3回	3回	3回	3回	3回	
			実績値	3回	3回				
ネットワークづくりの推進	行政と地域で協働した食育の推進を図り、充実した健康づくりのため、食育を担うボランティアの養成及び育成を行う。  ・食生活改善推進員の養成、育成と活動支援	実績値	年度	R3	R4	R5	R6	R7	健康づくり課
	指標		食生活改善推進員養成講座 受講者入会率						
			目標値	80.0%	80.0%	80.0%	85.0%	85.0%	
			実績値	75.0%	100.0%				

第3次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)取組状況調査票

ム ボ ラ ン テ ィ ア 育 成 と 活 動 の 推 進	食の提供をしているボランティアが衛生管理に注意し、継続して活動できるよう支援する。	・新型コロナウイルス感染症拡大により、食の提供を中止した団体が多かったが、一部再開の動きもみられた。再開に当たって、ボランティアが安心して食提供に取り組めるよう衛生講習会を実施した。 ミニデイサービス 11回 延69人 いきがい型デイサービス 5回 延36人 サロン 2回 延9人				食のボランティアが感染症予防に注意しながら、安心して活動できるよう引き続き講習会等を実施し、支援を行う。	高齢介護課
	・食育の推進に関わるボランティアの活動支援(デイサービス等ボランティア)	実績値	年度 R3 R4 R5 R6 R7 指標 管理栄養士のボランティア支援の延参加者数 目標値 — — — — — 実績値 56人 114人				
ム ボ ラ ン テ ィ ア 育 成 と 活 動 の 推 進	・「みんなの食堂」等の開催を支援することで、ボランティアの活動の場と機会を確保する。	・「みんなの食堂」等の開催 開催団体:5団体 開催回数:96回 参加者:1430人 ボランティア:921人 ・コロナ禍で活動を休止していた1団体が活動を再開した。 ・令和4年度に新規に1団体が活動を開始した。 ・ボランティアや食堂立ち上げ希望者に対し、「みんなの食堂」運営団体を紹介し、活動に繋げた。 ・「こどもの居場所づくり」を運営することも食堂のうち、補助金の交付対象となる規定を満たし、補助金の交付申請のあった2団体に対し、運営費の一部を補助した。				引き続き「みんなの食堂」等の運営団体を支援し、ボランティア活動を推進する。また、新規で食堂を立ち上げる団体を支援し、運営団体の増加に努める。	子育て総務課
	・食育の推進に関わるボランティアの活動支援(「みんなの食堂」等ボランティア)	実績値	年度 R3 R4 R5 R6 R7 指標 「みんなの食堂」等団体数 目標値 4団体 4団体 5団体 5団体 5団体 実績値 2団体 5団体				
① 食 育 に 関 す る ホ ー ム ペ ー ジ の 充 実	本市の食育事業の取組みの周知や参加者の募集のため、適時ホームページを作成、更新し、食育の情報提供に努める。	食育に関する情報提供や食育事業の参加者の募集及び周知のため、ホームページを作成、更新し、周知に努めた。市栄養士のおすすめヘルシーレシピを掲載。  ホームページのアクセス件数 毎月19日は食育の日「家族そろって食べようDAY!」 470回/年 市管理栄養士からのおすすめヘルシーレシピ 876回/年				多くの方に食育情報を提供できるよう、内容を整理し、見やすいホームページの掲載をしていく。LINEなどのSNSも活用し、普及啓発に努める。	こども家庭支援課
	・本市の食育に関するホームページの充実	実績値	年度 R3 R4 R5 R6 R7 指標 食育の日ホームページ掲載数 目標値 12回 12回 12回 12回 12回 実績値 12回 12回				

 ボンチーヌの目標

指標	計画策定時	目標値	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①知名度を上げる(ボンチーヌを知っている人の割合)	50.1%	60%	57%	43%			
②たくさんの人と会う(ボンチーヌの活動回数)	23回	30回	12回	22回			

## 第3次はだの生涯元気プラン(秦野市食育推進計画)指標総括表(中間評価用)

施策の方向性	指標	策定時	令和3年度	令和4年度	目標値	令和4年度の達成状況	調査方法	
基本目標1:楽しく食べて健康なからだを作ります～生涯食育の推進～								
(1)食習慣の向上	朝食欠食の割合	3歳児	3.6%	3.6%	3.0%	0%に近づける	策定時より減少し、目標に近づいた	3歳6か月児健診問診票
		小学生	6.1%	6.3%	7.5%	0%に近づける	策定時より増加し、目標から遠ざかった	全国学力学習状況調査
		中学生	10.7%	10.8%	10.4%	0%に近づける	策定時とほぼ横ばい	
		20～30歳代男性	20.5%	-	17.6%	10%以下	策定時より減少し、目標に近づいた	市民Webアンケート調査
(2)食を通じた健康づくり	体重が適正な人の割合(40～74歳)	男性	男性67.1%	男性66.7%	男性66.2%	男性71%	策定時とほぼ横ばい	特定健診
		女性	女性69.0%	女性67.4%	女性67.2%	女性72%	策定時とほぼ横ばい	
	栄養バランスをそろえた食事をする人の割合 (主食、主菜、副菜をそろえた食事をしている人の割合)	62.8%	-	58.5%	70%	策定時より減少し、目標から遠ざかった	市民Webアンケート調査	
(3)食の安全に対する理解の促進	食品を選ぶとき、安全性を意識して購入する人の割合	60.0%	-	52.3%	65%	策定時より減少し、目標から遠ざかった	市民Webアンケート調査	
基本目標2:食を大切にし、豊かなところを育みます～共食によるコミュニケーションの推進～								
(1)食を通じたコミュニケーションの確保	1日に1回以上、家族の誰かと食事をするようにしている人の割合	98%	98%	98%	100%に近づける	策定時とほぼ横ばい	食育アンケート(乳幼児健診)	
(2)食に関する様々な体験の充実	体験型農業の拡充(観光農業など体験型農業の参加区画数)	344区画	121区画	103区画	375区画	策定時より減少し、目標から遠ざかった	秦野市都市農業振興計画調査	
	食に関する体験活動に参加したことがある人の割合	26.8%	33%	38%	40%	策定時より増加し、目標に近づいた	食育アンケート(乳幼児健診)	
(3)食の伝統技術や文化の継承	食育に関心がある人の割合	66.8%	-	70%	80%	策定時より増加し、目標に近づいた	市民Webアンケート調査	
基本目標3:自然の恵みに感謝し、活力ある暮らしをみんなで作ります～食でつながりづくり～								
(1)地産地消の推進	給食食材における秦野産野菜の使用割合	こども園	7.1%	8.3%	-	10%	隔年で割合を算出するためR4の実績値なし。	給食調査
		小学校	37.2%	30.2%	-	50%	隔年で割合を算出するためR4の実績値なし。	
		中学校	-	37.7%	-	50%	隔年で割合を算出するためR4の実績値なし。	
	地場産物を積極的に購入したいと思っている人の割合	75.8%	-	83.0%	80%	策定時より増加し、目標を達成している	市民Webアンケート調査	
(2)食料生産における環境への配慮	可燃ごみ年間排出量	34,836t	33,859t	33,213t	33,600t	策定時より減少し、目標を達成している	秦野市ごみ処理基本計画	
	学校給食の残食率	小学校	2.2%	2.3%	1.8%	2.2%	策定時より減少し、目標を達成している	給食調査
		中学校	-	9.8%	14.6%	2.2%	R3年度より増加し、目標から遠ざかった	
(3)食育を担う人材の確保・育成・ネットワークづくりの推進	市民主体の食育推進に関わるボランティアの活動回数	1,128回	548回	590回	1,130回	策定時より減少し、目標から遠ざかった	活動実績数(食生活改善推進団体、デイサービスボランティア、子ども食堂)	

## ボンチーヌの目標

指標	策定時	令和3年度	令和4年度	目標値	令和4年度の達成状況	調査方法
①知名度を上げる(ボンチーヌを知っている人の割合)	50.1%	57.0%	43.0%	60%	策定時より減少し、目標から遠ざかった	食育アンケート(乳幼児健診)
②たくさんの人と会う(ボンチーヌの活動回数)	23回	12回	22回	30回	策定時とほぼ横ばい	活動実績数